
「スキャナー」 新型肺炎専門家会議、沈静化へ議論…「高齢」「持病」に重点

2020/02/17 07:36

• [新型肺炎](#)

[読者会員限定]

肺炎を引き起こす新型コロナウイルスの感染者が国内で相次いで確認されていることを受け、16日に開かれた専門家会議の初会合では、受診の目安や国内の発生状況について議論した。国内で経路がよくわからない感染が広がり、国民の不安が高まる中、医学的な見地からの確かな助言がまとめられ、沈静化への一歩となることが期待される。(医療部 鈴木希)

■「必要な診療に」

「患者、特に高齢者、基礎疾患のある方が確実に必要な診療につながるよう、国民の皆様に分かりやすい受診の目安の作成などについて、議論をお願いしたい」

16日に開かれた専門家会議の初会合の冒頭、安倍首相が12人のメンバーに呼びかけた。会議では、新型コロナウイルス感染症の医学的性質や、重症化予防を含む今後の戦略などについて話し合われた。

現在、千葉県や北海道などで感染経路が特定できない症例が複数出ていることについて、会議のメンバーは、まだ流行期ではなく、「国内発生早期」との認識を共有したという。

厚生労働省は、会議に提出した議論のたたき台となる資料の中で、新型コロナウイルス感染症の患者像を改めて示した。

資料では、▽感染経路は飛沫感染・接触感染▽一部の患者に強い感染力を持つ可能性がある▽無症状病原体保有者がいる▽無症状～軽症の人が多く▽発熱や呼吸器症状が長く続くこと

が多く、強いだるさ(^{けんたい} 倦怠感)を訴える人が多い▽高齢者・基礎疾患保有者は重篤になる可能性が高い▽対症療法が中心で、特別な治療法はない——としている。

■診療指針、症例集

「患者の増加を想定した対策が今から必要だ」。専門家会議後の記者会見で加藤厚労相が説明した。医療現場では今後、重症患者にどのように対応していくかが重要とし、厚労省として近く、診療指針や症例集を策定することを明らかにした。

国立感染症研究所(感染研)所長の脇田隆字・同会議座長は、感染リスクの高い人として、糖尿病や心不全、慢性腎不全などの基礎疾患がある患者をあげた。

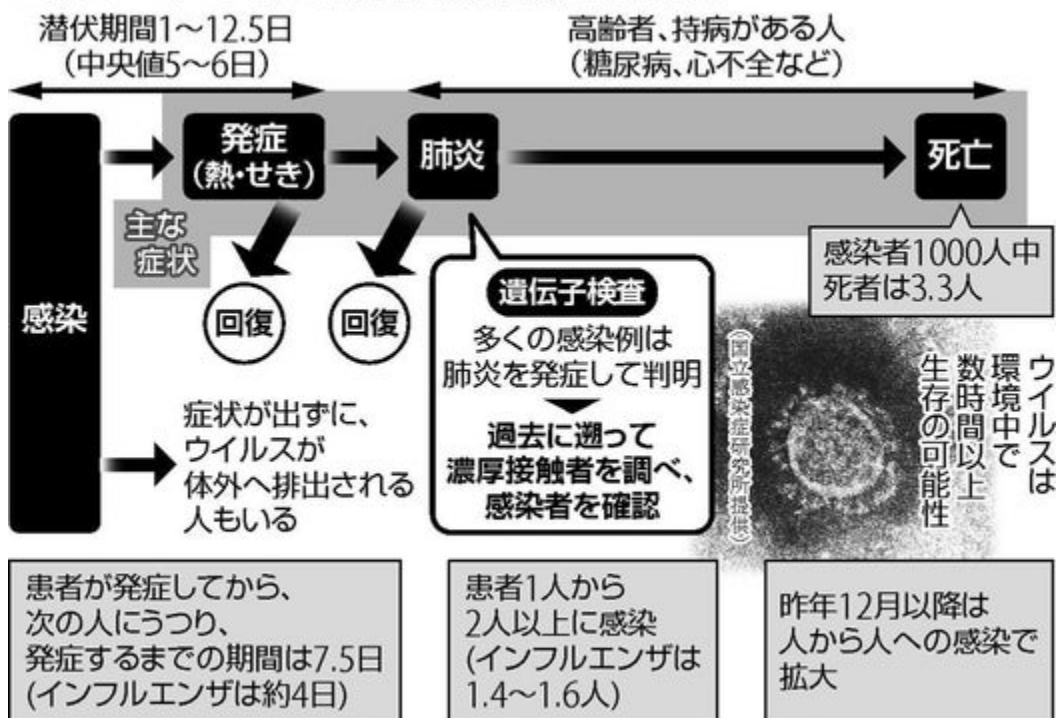
一方、脇田座長は一般の人に対し、「だるさや呼吸器症状が出てきたら相談が必要。軽症者は帰国者・接触者相談センターを利用してもらいたい」と話した。ただ、これまでの症例や国外の状況を踏まえ、受診や相談の目安を示す予定だったが、専門家の中で議論がまとまらなかった。

現在、感染研や地方の衛生研究所などを中心に行われているウイルスの遺伝子検査は、体制を強化する一方、軽症者の殺到を避けるための対応も検討している。

感染の広がりを止めるため、一般の人にはなるべく人混みを避けたり、不要不急の外出を自粛したりするなどの取り組みも求めた。症状が出ていない人や、潜伏期間中の人からも感染する可能性があるためだ。脇田座長は「皆さんに意識を持ってほしい」と訴えた。感染拡大を食い止められるか、正念場を迎えている。

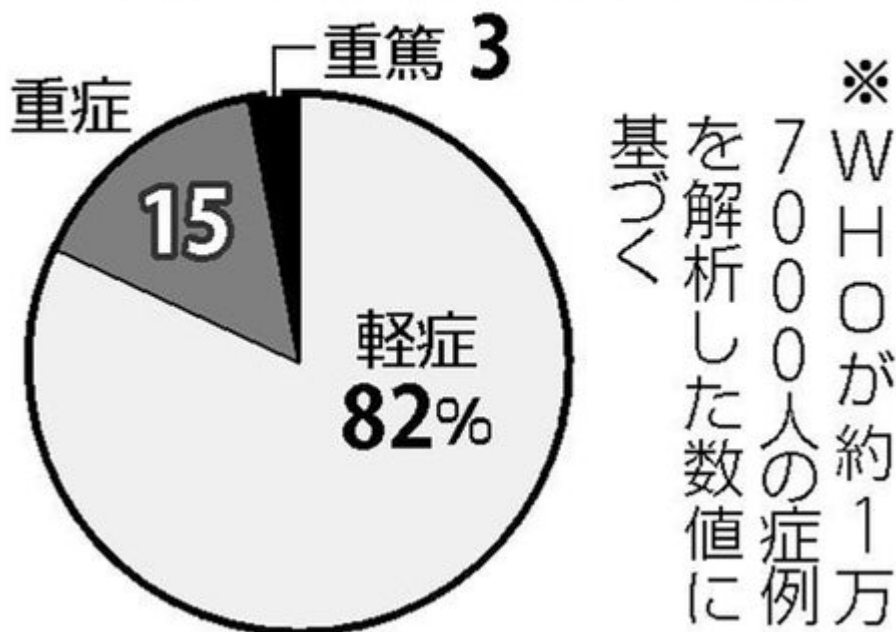
感染しても8割「軽症」

◆新型コロナウイルス・症状と感染拡大の仕組み



※進藤奈邦子・世界保健機関 (WHO) シニアアドバイザーの説明などを基に作成

◆新型コロナウイルス 感染者の8割は軽症で済む



新型コロナウイルスの特徴については、世界保健機関 (WHO) や専門家による分析も進められている。WHOで感染症対策の司令塔を務める進藤奈邦子シニアアドバイザーは、「季節性のインフルエンザよりも明らかに感染力が強い」と注意を促している。

進藤氏によると、感染者1人がうつす人数が、季節性インフルエンザで1・4～1・6人なのに対し、新型コロナウイルスは2人以上だという。遺伝子解析の結果、動物からごく少数の人に感染した後、昨年12月以降は人から人への感染が続いていると考えられる。

ただ、進藤氏は「インフルエンザほどの爆発的な感染は起こらないだろう」と冷静な対応を求め、「インフルエンザは、最初の患者が発症してから次の患者が発症するまでの期間が4日程度。新型コロナウイルスは7・5日で2倍近い。感染が比較的ゆっくり進む」と指摘。潜伏期間は、多くは約5日と推定され、軽症者は発症から3日までのウイルス排出量が多いという。

また、中国で2～3%とされる致死率は、症状の出ない感染者を含めた場合は約0・3%で、同じコロナウイルスが原因のSARS(重症急性呼吸器症候群)の約10%、MERS(中東呼吸器症候群)の約35%に比べ低い。WHOが感染者約1万7000人を分析した結果、82%が軽症、15%が重症、3%が重篤だった。

体から出たウイルスについて、WHOは「数時間以上生存する可能性がある」との見解を示している。コロナウイルスに詳しい氏家誠・日本獣生命科学大准教授は「多くの人が行き交う場などでは、どこにウイルスが残っているか分からない。外出時の手洗いなどが重要になる」と話す。

これまでの研究などから、アルコール消毒が有効とされる。また、感染者の中には、症状が出ないままウイルスが体外に排出される人もいるという。(科学部 中居広起、大阪科学医療部 東礼奈)



政府の新型コロナウイルス感染症対策本部(本部長・安倍首相)へ医学的助言を行うために設置され、16日に初会合が開かれた「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」のメンバーは次の通り(敬称略)。



【座長】脇田隆字(国立感染症研究所長)【副座長】尾身茂(地域医療機能推進機構理事長)【構成員】岡部信彦(川崎市健康安全研究所長)、押谷仁(東北大教授)、釜范敏(日本医師会常任理事)、河岡義裕(東大医科学研究所感染症国際研究センター長)、川名明彦(防衛医大教授)、鈴木基(国立感染症研究所感染症疫学センター長)、舘田一博(東邦大教授)、中山ひとみ(弁護士)、武藤香織(東大医科学研究所教授)、吉田正樹(慈恵医大教授)